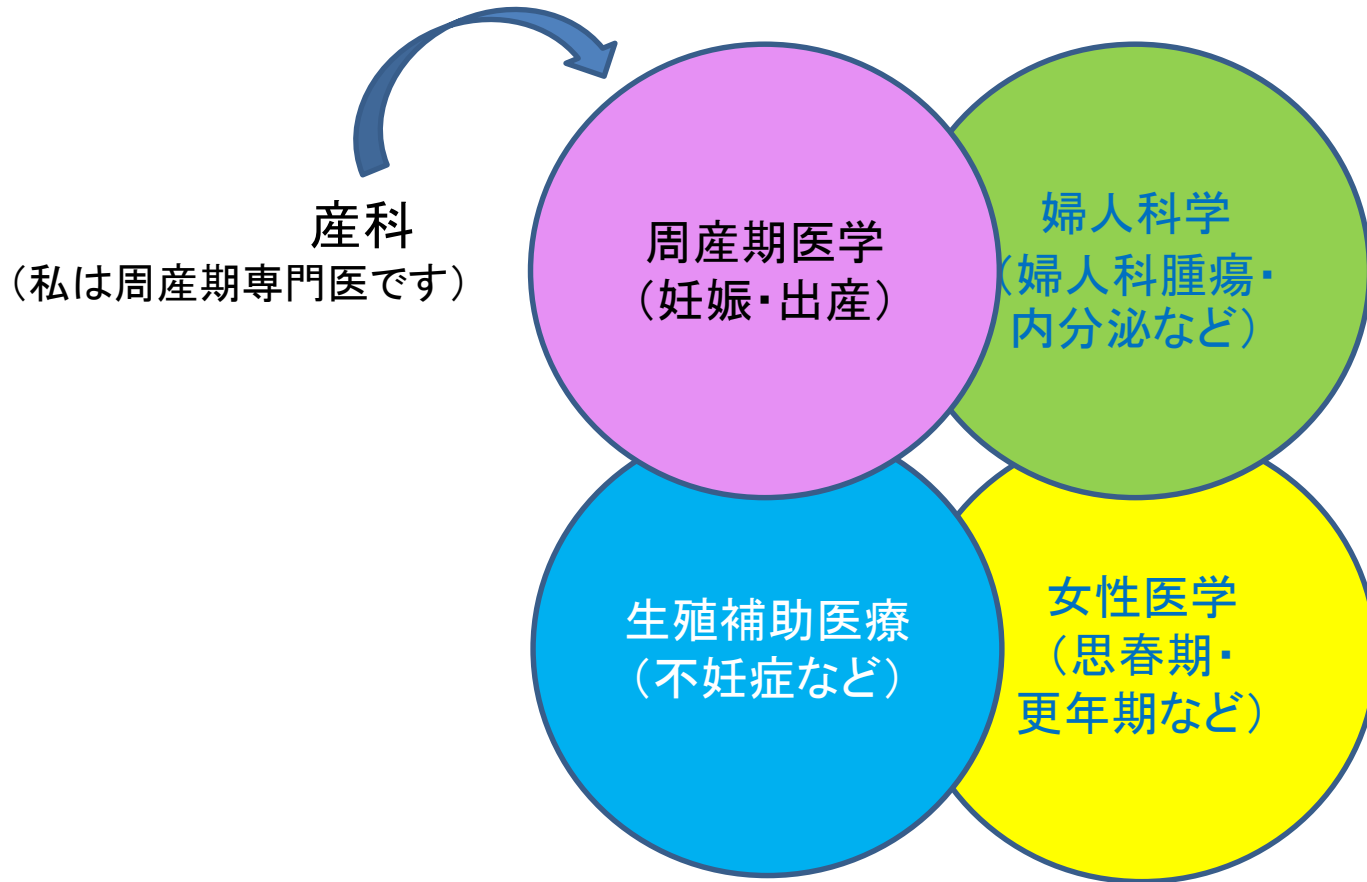


産婦人科医療

信州大学産科婦人科
大平哲史(おおひら さとし)



産婦人科医の役割



女性の一生をケアする職業である。仕事は楽な方ではないが、学問としては非常に幅が広く、とてもやりがいがある。

女性の一生をケアする産婦人科医療

思春期医学

更年期障害

子宮脱・萎縮性膣炎など

婦人科学(婦人科良性腫瘍・悪性腫瘍・性感染症など)

生殖補助医療(不妊症)

周産期医学(妊娠・出産)

誕生

10

20

30

40

50

60

70

80

年齢

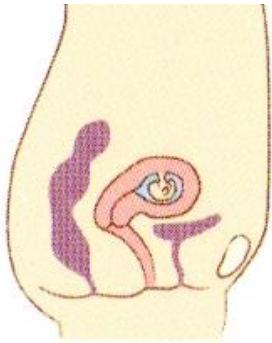
周産期医療

(妊娠・出産)

妊娠の経過と妊婦健診

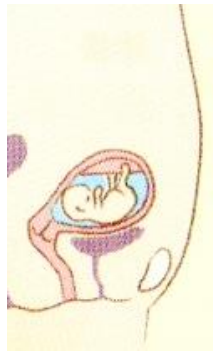
妊娠の経過

赤ちゃん
ブドウ1粒くらい



妊娠2か月

赤ちゃん
レモン1個くらい



妊娠4か月

赤ちゃん
オレンジ
1個くらい



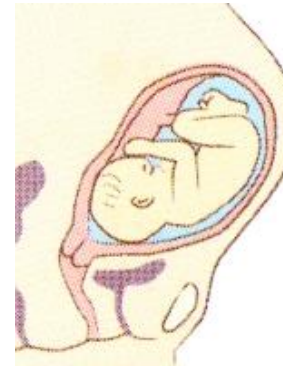
妊娠5か月

赤ちゃん
グレープフルーツ
1個くらい



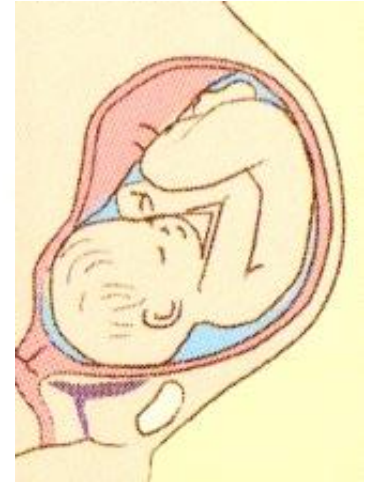
妊娠6か月

赤ちゃん
かぼちゃ
1個くらい



妊娠8か月

赤ちゃん
すいか
1個くらい



妊娠10か月

😊 いざ出産へ！

5

10

15

20

25

30

35

40

妊娠(週)

妊婦健診



超音波(エコー)を使って胎児の様子を観察します。

2週
排卵・受精

4週
妊娠反応陽性

5～7週：産婦人科に受診
妊娠と判明！



最終月経

5

10

15

20

25

30

35

40

妊娠(週)

2週
排卵・受精

4週
妊娠反応陽性



8~10週:分娩予定日決定
母子手帳交付

最終月経

5

10

15

20

25

30

35

40

妊娠(週)

分娩予定日

妊娠17週



2週
排卵・受精

4週
妊娠反応陽性

8～10週:分娩予定日決
母子手帳交付

最終月経

5

10

15

20

25

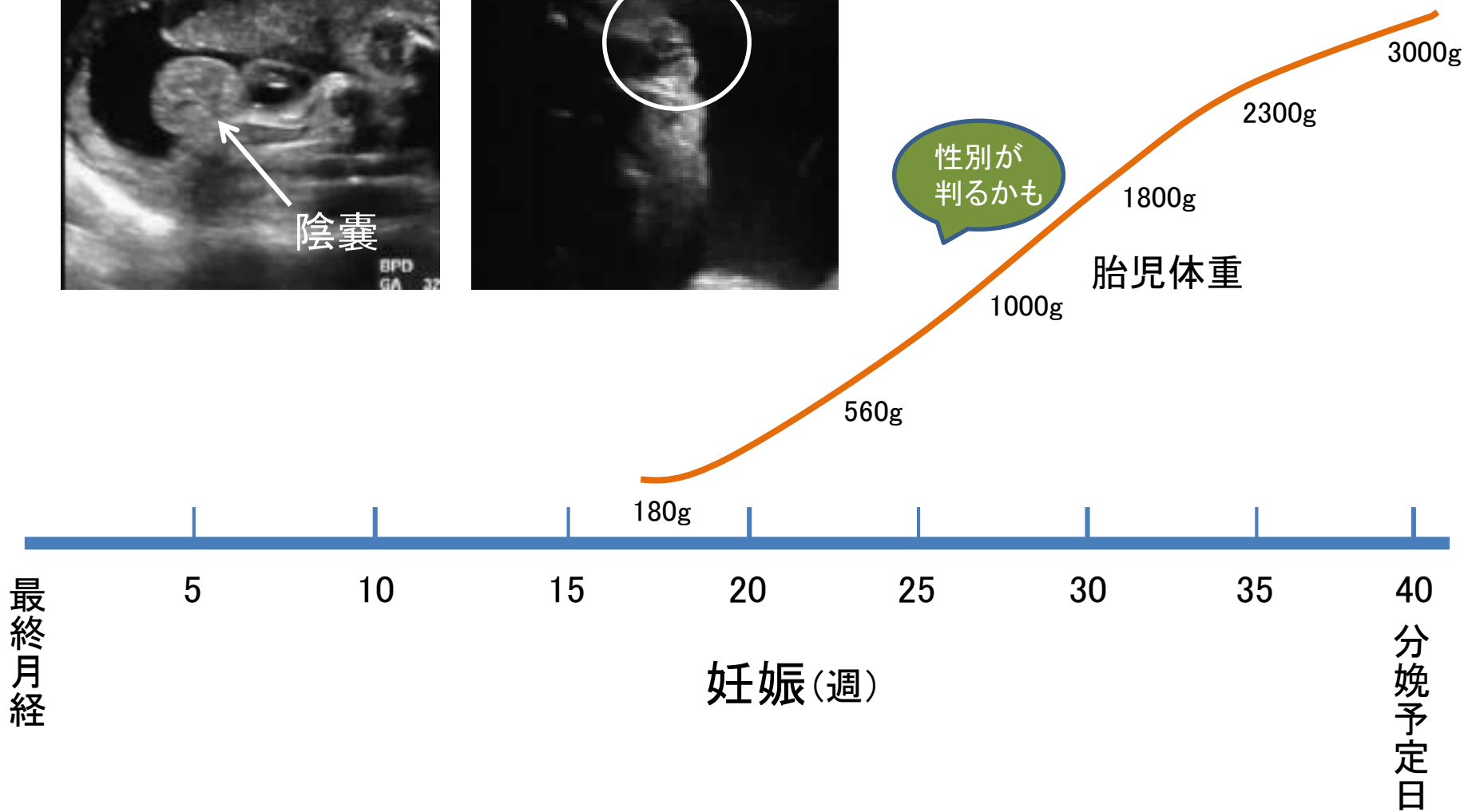
30

35

40

妊娠(週)

分娩予定日



婦人科学

(婦人科腫瘍・内分泌・性感染症など)

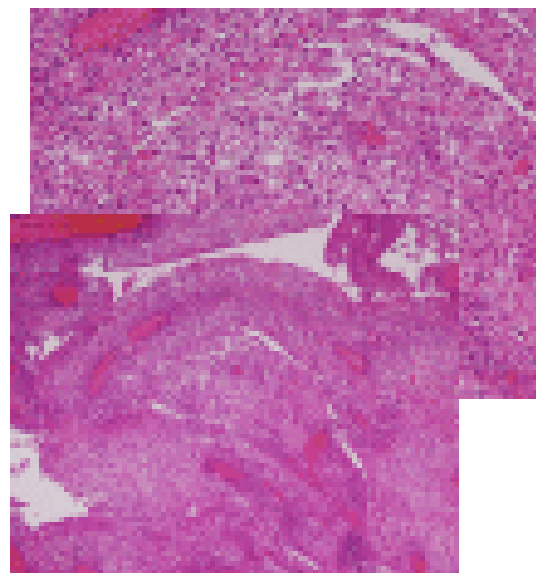
卵巢癌



MRI



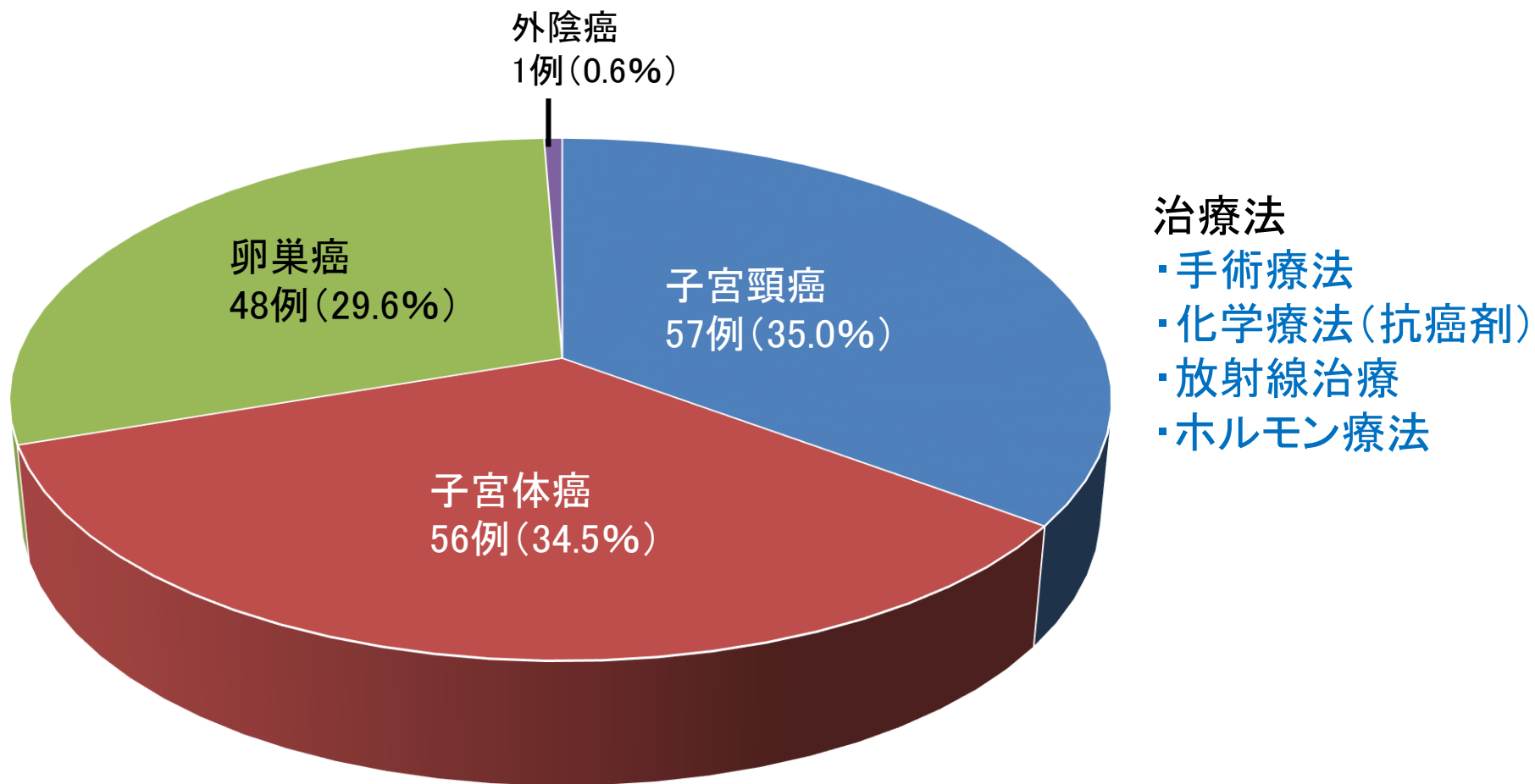
術中所見



病理組織像

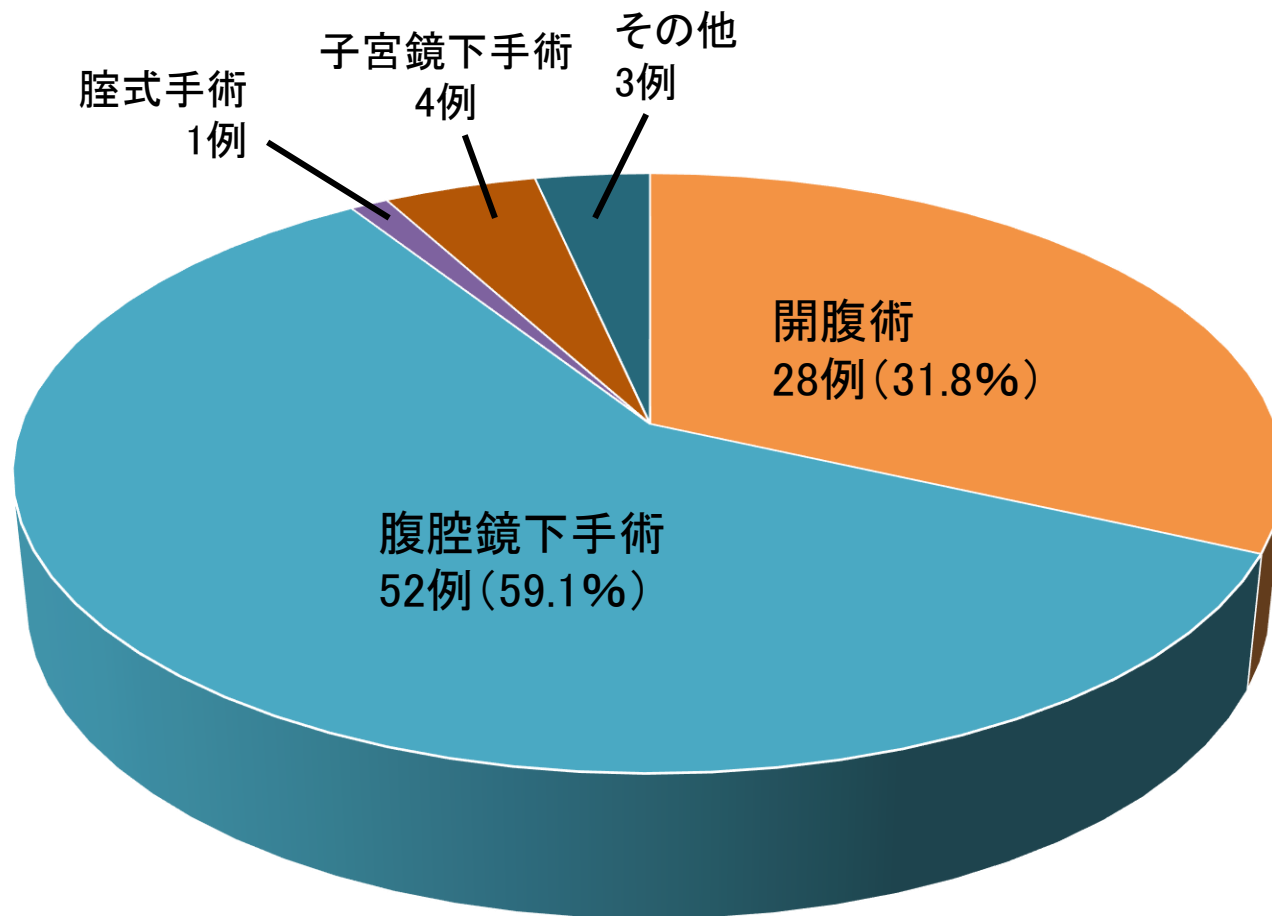
信州大学

2016年 婦人科悪性疾患臨床統計

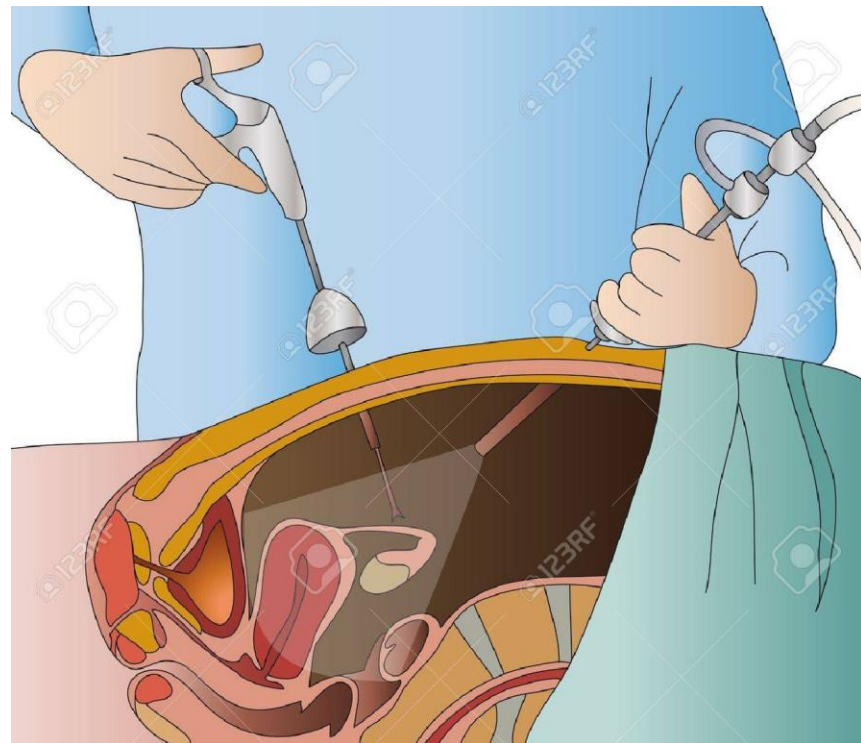
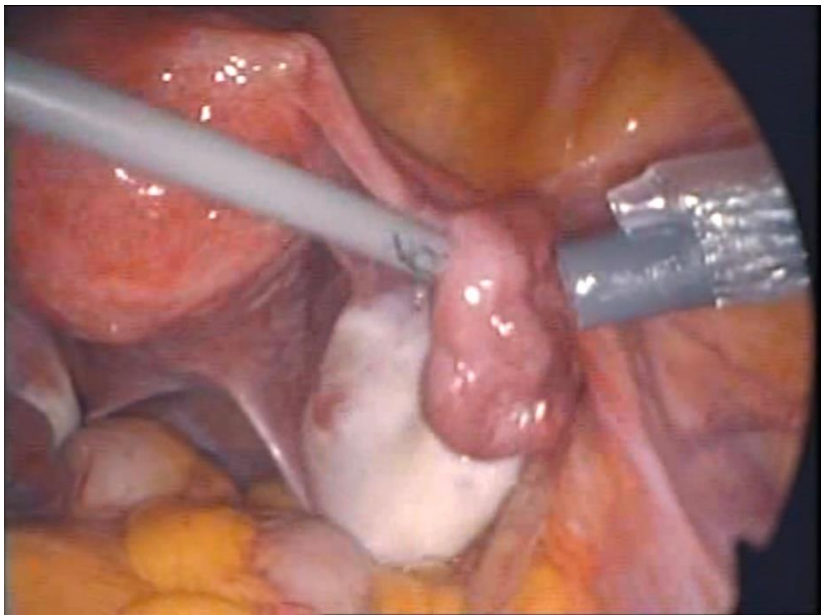


信州大学

2016年 婦人科良性疾患術式統計



腹腔鏡手術



生殖補助医療

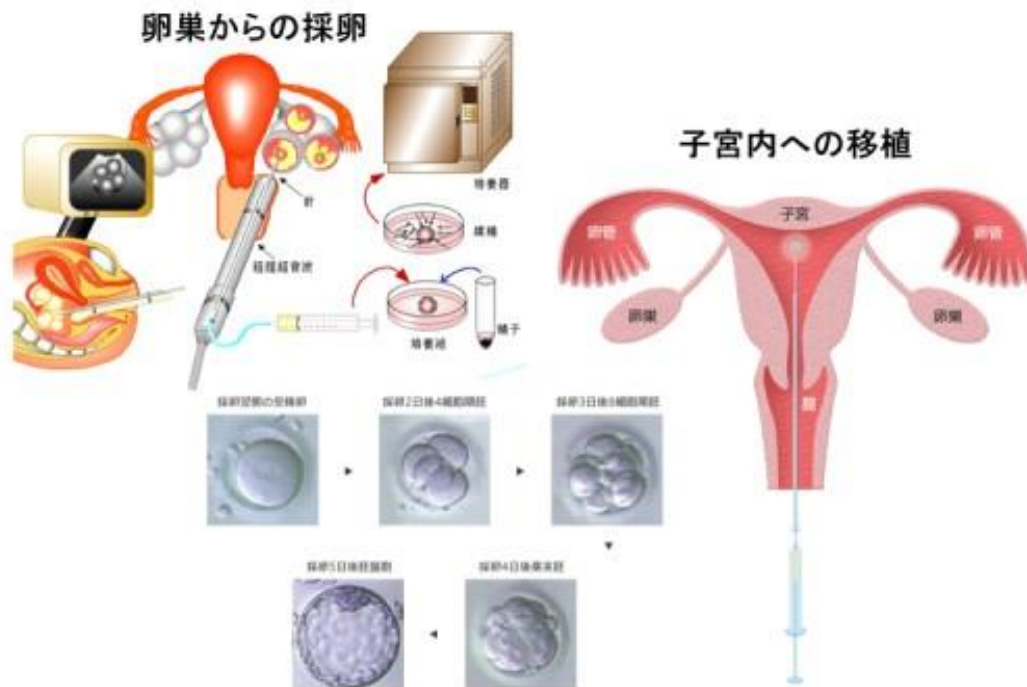
(不妊症など)

人工授精



精子を注入

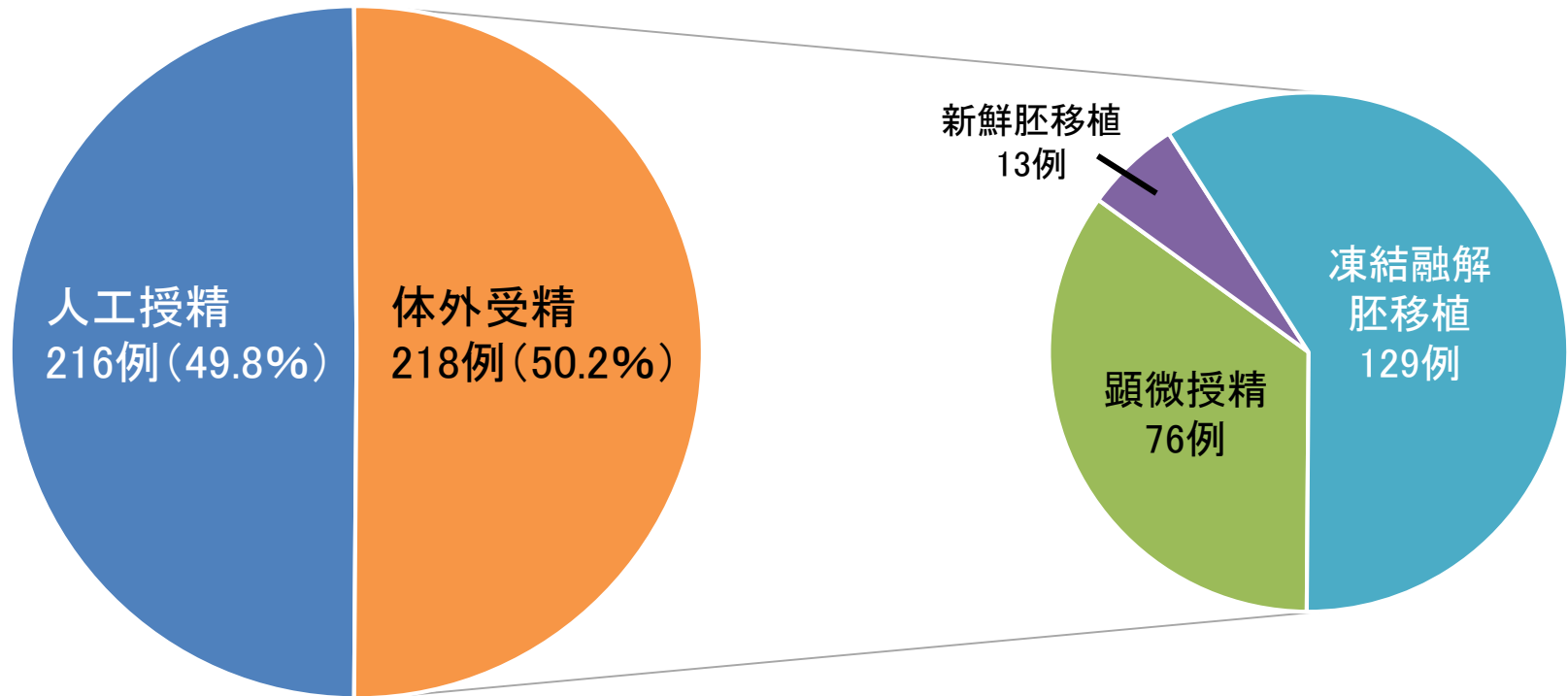
体外受精



採卵して精子と合わせる
→受精卵を子宮内へ

信州大学

2016年 不妊症治療臨床統計



顯微授精



健康ナビ 医療

信大医学部産科婦人科・大平講師に学ぶ

更年期障害の基礎知識

女性医学 市民公開講座 「更年期を乗り切るために」

「更年期障害」という言葉が気になる年代になってきた。誰もが経験する人生の通過点なのでむやみに恐れる必要はないが、症状の出方は個人差があり、最近では男性の更年期障害も増えていると聞くので、基本的な知識は頭に入れておきたい。松本市の信大医学部産科婦人科の大平哲史講師(47)が、3月に同大で開いた市民公開講座「夫婦で乗り切る更年期」取材し、要点をまとめた。

(上條香代)

医療機関で正しい診断を

【女性の更年期】

閉経の前後5年間。閉経は12カ月以上の無月経を確認して判定するのでさかのぼって判断する。日本人の平均閉経年齢は50～51歳。

加齢により卵巣機能が低下し、それまで卵巣で作っていた女性ホルモン(エストロゲン)の量が減少すると、脳は卵巣に対して

★諸症状別表

診断基準が明確でなく、病状の把握の大半は患者の訴えに依存して

更年期障害の諸症状

①自律神経失調症状

のぼせ(ホットフラッシュ)、発汗、寒け、冷え、動悸(どうき)、胸痛、息苦しさ、疲労感、頭痛、肩凝り、目まい

②精神的症状

情緒不安定、いらいら、怒りっぽい、不安感、抑鬱気分、涙もろい、意欲低下

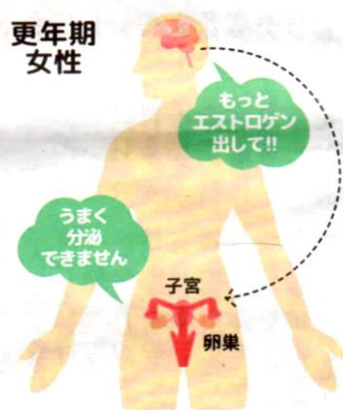
③その他

腰痛、関節痛、手のこわばり、むくみ、しびれ、かゆみ、錆走(さそう)感、排尿障害、頻尿、性交障害、外陰部違和感

り、客観的に病態を捉えるに、症状も多い。甲状腺機能異常、心疾患、脳血管障害、整形外科疾患など他の疾患が隠れている場合もあるので、自己判断せず医療機関で正しい診断を受けてほしい。

こうした症状に加えて、月経の停止、体力の衰え、乳房の萎縮など一般活動性の衰退と喪失、子どもとの自立や夫の退職、両親の介護など家族状況の変化、知人や近親者の不幸、夫の病氣や死別など人間関係の喪失、不眠、体力気力の低下など境界の自覚といった心理的背景が重なり、症状が増幅されやすい。

更年期女性



【男性の更年期】

女性とほぼ同じ時期に男性も加齢により男性ホルモン(テストステロン)が減少する。女性と違って緩やかに減少するため、更年期を定義しにくい。

★症状

①身体 骨・関節・筋肉関連症状、発汗、ほてり、睡眠障害、記憶・集中力の低下、肉体的消耗感。

②精神・心理 落胆、抑鬱、いらいら、不安感、神経過敏、生気消失、疲労感。

③性機能関連 性欲低下、勃起障害、射精感の減退。

★治療法

男性ホルモン補充療法、漢方治療など。

家庭や職場における自分のアイデンティティの在り方を問われる時期でもある。

★治療法

①薬物療法 ホルモン補充療法、漢方療法。その他(向精神薬として抗鬱薬、抗不安薬、睡眠薬)。

②心理療法 指針分析、来談者中心療法、行動療法、認知行動療法など。

③食事療法 一番はバランスよく食べる。※近年、エストロゲン

更年期は生活改善のとき

【夫婦で更年期を乗り切るために】

更年期に入ったことは、外食や飲酒などの食生活を見直すサイン。運動不足の改善は大事だが、いきなり始めるのは体力的、精神的に大変な

のでスローペース、マイペースで。

また、子どもの進学や就職などだけを生きがいにしていくと、期待通りにならないときや、願いが実現した後に目標がなくなるので自分の趣味を持つてほしい。

味を持つてほしい。

更年期の「更」は更新、更正、変更を表す言葉。自分の体を知り、パートナーのことも理解し、お互いの苦しいことを分か

つて力を合わせることが乗り切る第一歩だ。会話を大切に、ゆるやかな日々を過ごすことが満足感や幸福感につながる。

「更年期症状は女性には産婦人科、男性には泌尿器科を受診して」と大平講師



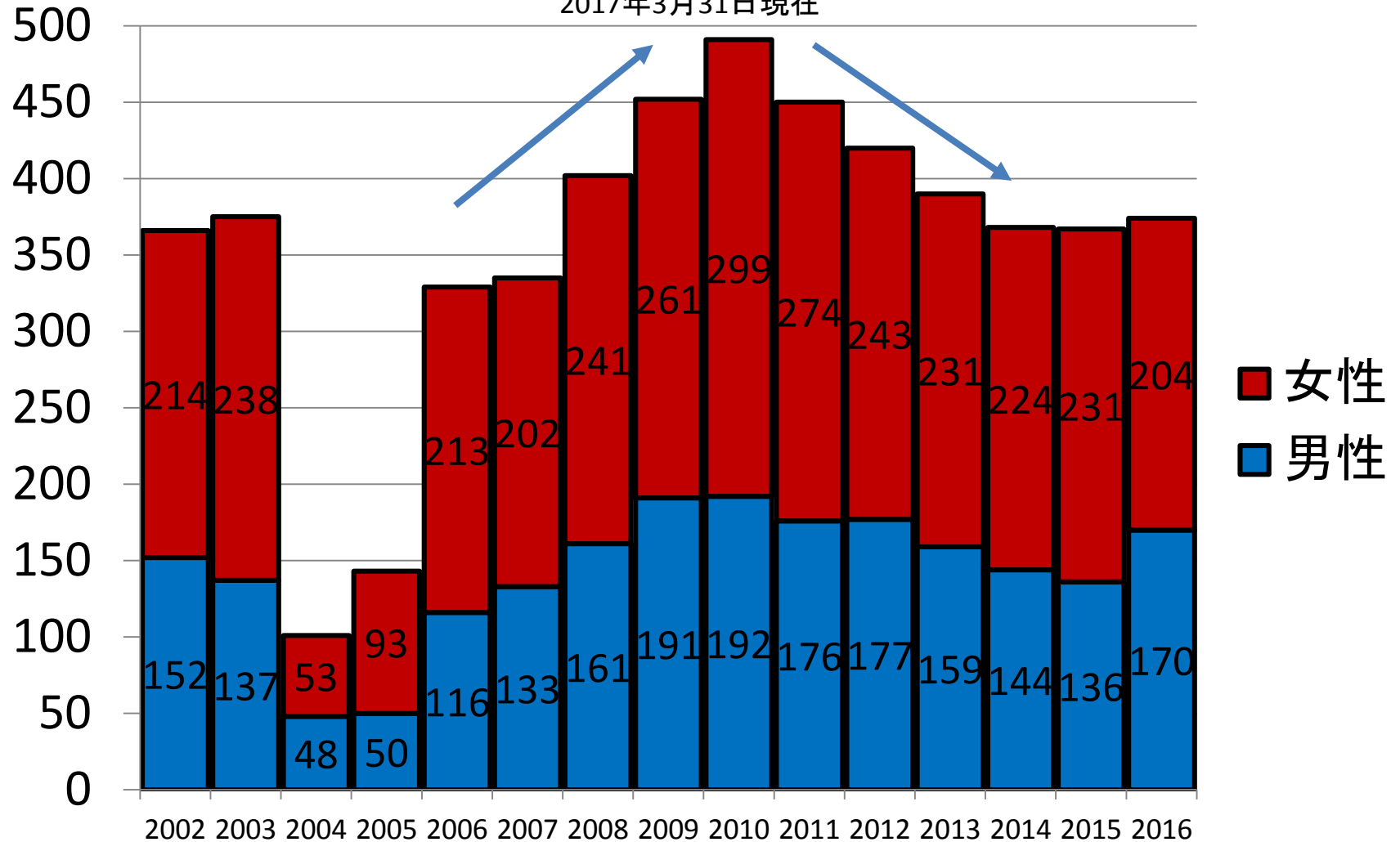
産婦人科医療の問題点

－産婦人科医不足－

- ・産婦人科医になる医師が少ない
- ・分娩取り扱い施設の減少

日本産科婦人科学会 年度別新規入会者(産婦人科医)数の推移 (全国で毎年何人が産婦人科医になったか)

2017年3月31日現在

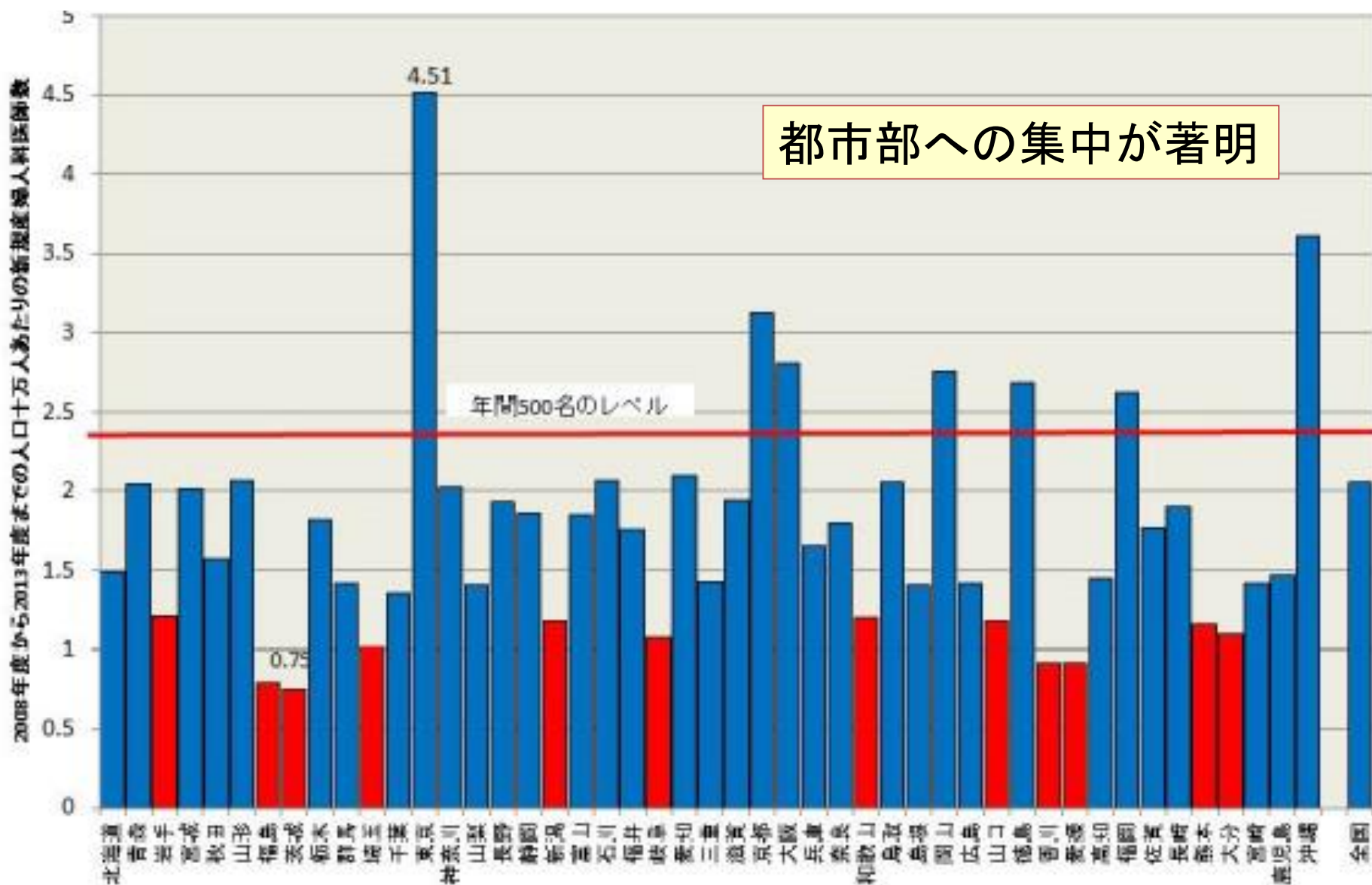


2010年をピークに漸減傾向:

安定した産婦人科医療維持のためには毎年500人の新規医師が必要。

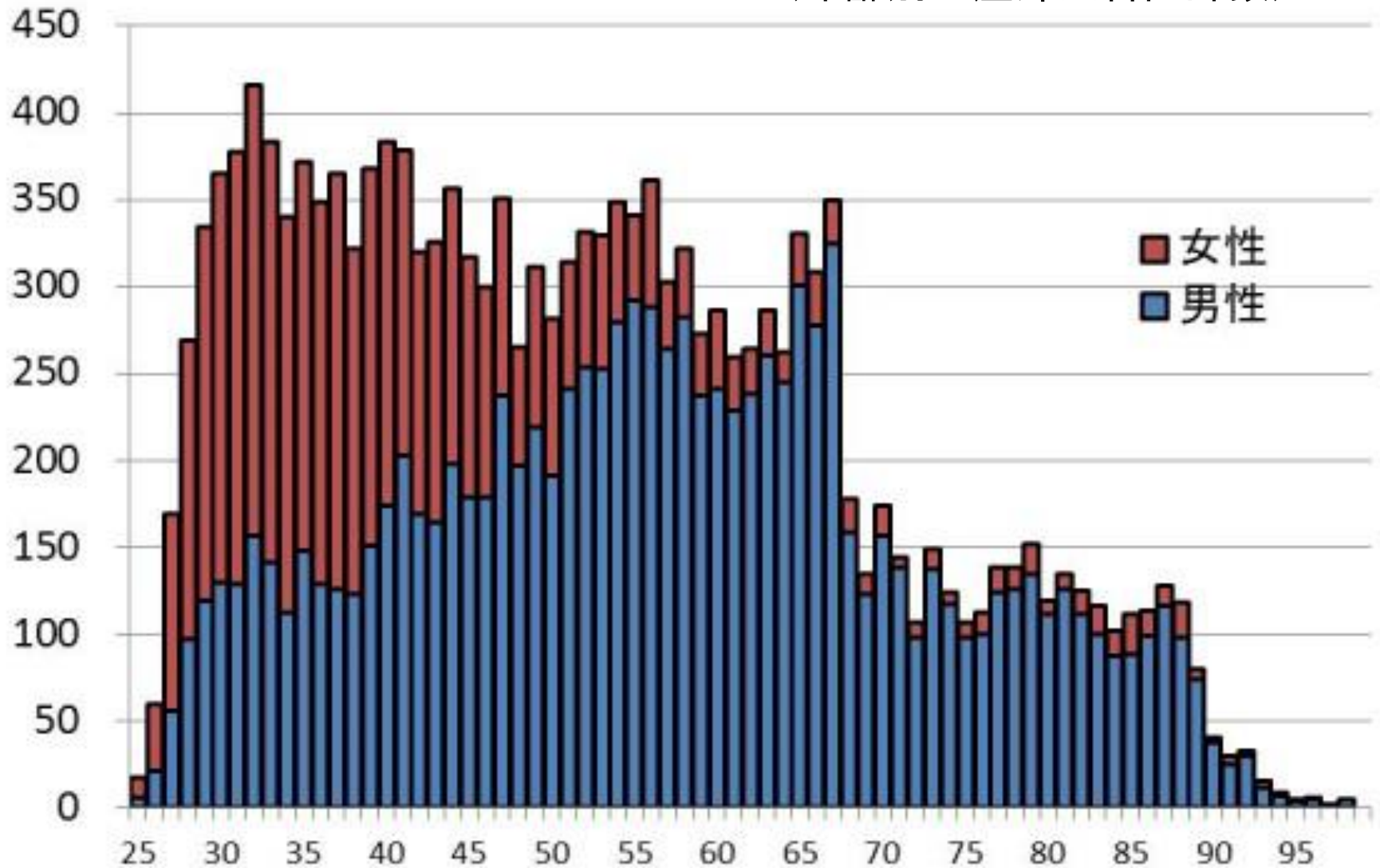
都道府県別新規産婦人科医師数

(人口10万人あたり)



日本産婦人科学会 性別年齢別会員数

(年齢別の産婦人科医師数)



若年層での女性医師の増加が著明

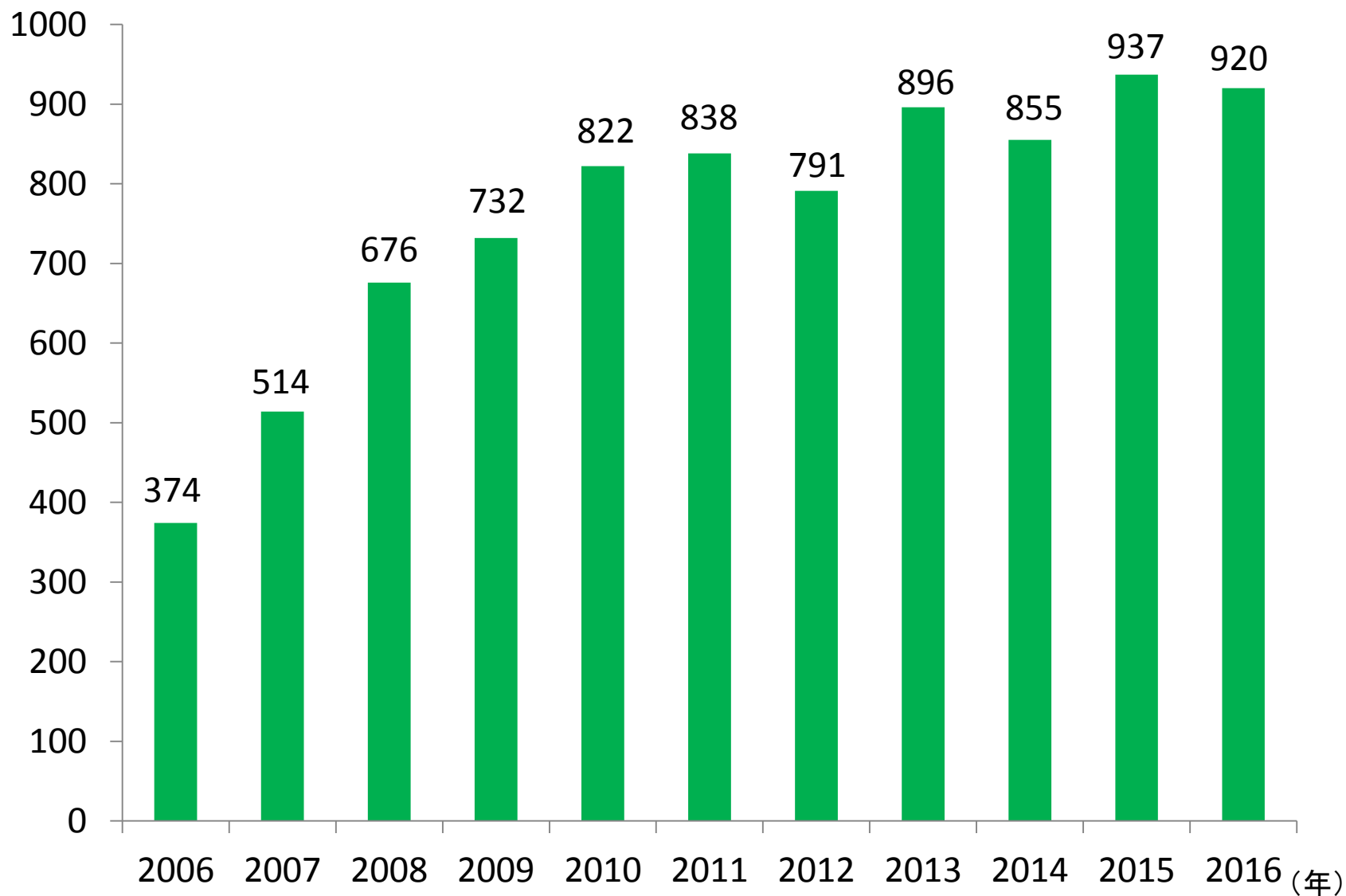
約20年前の 県内産科関連病院



産科施設の減少 と集約化が進んだ

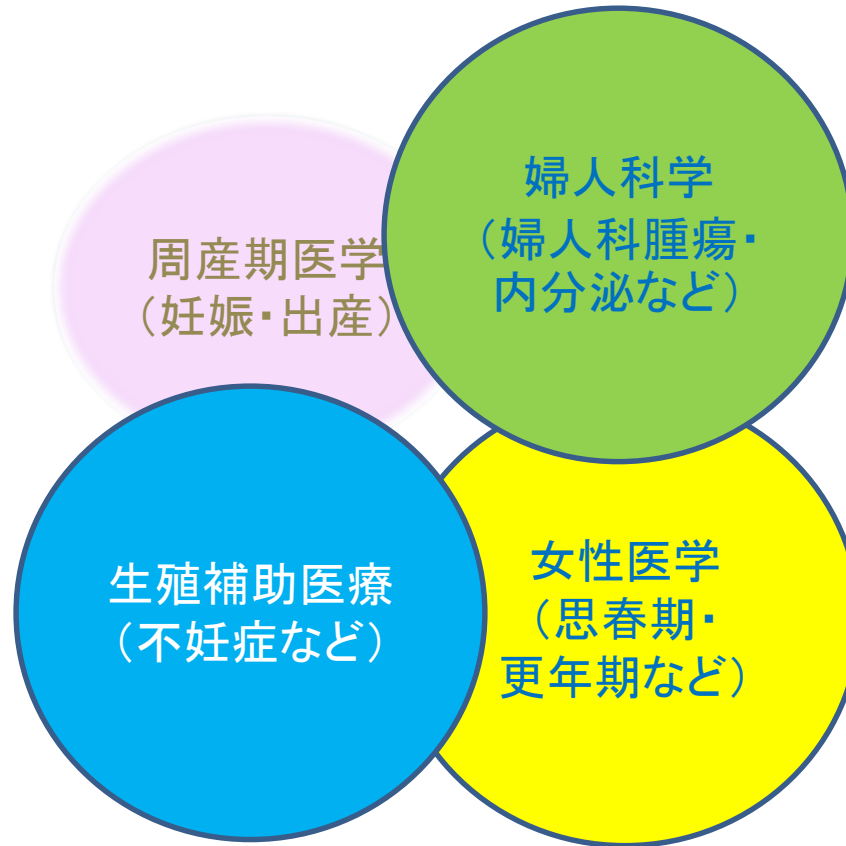


信大病院における年間分娩数の推移



- 女性医師には、妊娠・出産により仕事を離れなければならない時期がある。
- 各医師に合った柔軟な勤務体制の構築が必要である。
- 毎年500人の新規産婦人科医が必要であるが目標に達していない。また、都市部と地方とで格差がある。
- 産婦人科医不足による分娩施設の減少のため、分娩施設の集約化が起こっている。
(集約化することにより対応している)

産婦人科医の役割



子育て中は、夜間・休日の分娩当直はできなくても、昼間の業務が可能。活躍の場はいくらでもある。